

第7次地域福祉活動計画の令和4年度進捗状況について

【「R4委員会の評価」欄の○△×について】
 ○ 計画どおり、概ね計画どおり進んでいる
 △ 計画に遅れがみられる
 × まだ、着手できていない

施策の方向性1 学びの場をつくり、福祉人材を育成する

No.	取組項目	事業概要	取組内容	当初3年間の計画			R4実績	R4決算額	R4委員会の評価	所管
				R4	R5	R6				
1	ボランティア活動等の推進	市民のボランティア活動への参加を促すため、情報提供・啓発や講座を開催し、新たなボランティア活動や地域活動の担い手となる人材を確保・育成します。 また、判断能力が十分でない方が安心、安全でより豊かな生活を送れるよう、将来、市民後見人として活動することを希望する住民に、成年後見人等に必要な知識等を習得する機会を提供します。	<ボランティア> ボランティアの相談・登録を行い、ボランティア情報紙等を発行して、ボランティア情報を提供します。 また、新たにボランティア活動に参加する人やすでに登録しているボランティアに対し、多種多様なボランティア講座を開催し、人材の確保・育成に努めます。 <市民後見人> 25歳から70歳までの住民に対し、基礎編、応用・実務編として2か年度に渡り、成年後見人等に必要な知識等を習得する養成研修を実施します。	新規ボランティア登録者数180人 市民後見人養成者延べ205人 市民後見人活動者延べ36人	新規ボランティア登録者数200人 市民後見人養成者延べ205人 市民後見人活動者延べ38人	新規ボランティア登録者数250人 市民後見人養成者延べ225人 市民後見人活動者延べ40人	<ボランティア> 新規ボランティア登録者数235人 <市民後見人> 市民後見人養成者延べ202人 市民後見人活動者延べ31人 養成研修〔前期課程〕実施 受講・修了13人	<ボランティア> (市補助・会費・共募) 3,610千円 <市民後見人> (受託金) 187千円	<ボランティア> 新規ボランティア登録者数の目標値を50人以上上回るなど、計画どおり進捗しています。 <市民後見人> 概ね計画どおり進捗しています。	VC 後見C
2	福祉教育の推進	小・中学校の児童・生徒や住民が地域福祉へ関心を持ち、理解を深めてもらうために、学校や地域で行う福祉教育を推進します。	学校や地域等に福祉体験用具の貸出、本会職員による出前講座等を行います。 また、学校における福祉教育が円滑に行われるよう、学校教員や小・中学校の児童・生徒に対し情報紙や冊子を配布するとともに、教員向け福祉教育講座を開催します。 なお、毎年、市立小・中学校6校を3年間、ボランティア活動推進協力校として指定し、企画・提案や助成金を通じて、学校が行う福祉教育を支援します。	情報誌の発行 貸出・講師派遣等50件	情報誌の発行 貸出・講師派遣等55件	情報誌の発行 貸出・講師派遣等65件	情報誌の発行 貸出・講師派遣等299件	(市補助・会費・共募・V基) 4,066千円	新型コロナウイルス感染症が少しずつ収まり始めたため、福祉教育を再開する学校が増え、福祉体験用具の貸出件数が大幅に増加するなど、計画どおり進捗しています。	VC
3	成年後見制度の普及・啓発	認知症や知的障害、精神障害などのために判断能力が十分でない方の権利や財産を守ることができる成年後見制度について広く周知を図ります。	ホームページによる情報提供、パンフレットの作成、講習会の開催及び講師の派遣を実施します。	講習会8回 講師派遣10回	講習会8回 講師派遣12回	講習会8回 講師派遣15回	講習会12回 講師派遣18回 パンフレット作成14,000部	(受託金) 45千円	講習会等については、計画を上回る数を実施しました。 パンフレットの作成等については、概ね計画どおり進捗しています。	後見C
4	地区部会活動従事者に対する研修の実施	地区部会活動に有益な知識やスキルを提供できるよう、地区部会従事者に対する研修を実施します。	アンケート等により地区部会の意見・ニーズを収集し、研修を実施します。	研修会4回	研修会4回	研修会4回	年4回実施(市3回、各区1回) 若葉区は未実施 延べ参加者256人	(会費・共募) 368千円	概ね計画どおり進捗しています。	推進班
5	民生委員・児童委員に対する研修の実施	民生委員・児童委員(以下「主任児童委員を含む。」)に対し、民生委員・児童委員としての人格観の向上と職務を行ううえで必要な知識及び技術の修得のため、民生委員・児童委員の活動方法、活動上の心得、社会福祉の動向等について必要な研修を実施します。	<民生・貸付班> 民生委員・児童委員全体研修、地区民児協会長・副会長研修を年1回実施します。 <研修C> 主任児童委員研修を年1回実施します。 改選時(3年毎)に新任民生委員・児童委員を対象とした新任研修を実施します。	研修会4回	研修会3回	研修会3回	<民生・貸付班> 民生委員・児童委員全体研修実施 ・参加者530人 地区民児協会長・副会長研修実施 ・参加者226人 <研修C> 主任児童委員研修実施 ・参加者28名 新任民生委員・児童委員研修実施 ・参加者333名	<民生・貸付班> (受託金) 448千円 <研修C> (受託金) 333千円	<民生・貸付班> 計画どおり進捗しています。 <研修C> 計画どおり進捗しています。	民生・貸付班 研修C

施策の方向性2 身近な地域で支援が届くしくみをつくる

No.	取組項目	事業概要	取組内容	当初3年間の計画			R4実績	R4決算額	R4委員会の評価	所管	
				R4	R5	R6					
6	見守り活動の促進 《重点》	住民同士による日常的な見守りや安否確認等が行われるよう、新規立ち上げや活動の継続に向けて支援します。	地区部会エリアで見守り活動が拡充するよう、ノウハウの提供や助成を通じ支援します。	35地区部会エリア	37地区部会エリア	39地区部会エリア	支援 (1地区増・計34地区部会エリア)	(共募) 1,235千円	コロナ禍の影響もあり、計34地区部会(計251町内自治会)にとどまり、計画に遅れがみられます。 引き続き、地区部会や町内自治会への働きかけ、広報の強化を通じて、拡充を図っていきます。	△	推進班
7	地域支えあい活動の促進 《重点》	住民同士による生活支援等の支えあい活動が行われるよう、新規立ち上げや活動の継続に向けて支援します。	地区部会エリアで支えあい活動が拡充するよう、ノウハウの提供や各種助成金制度を活用し支援します。	27地区部会エリア	28地区部会エリア	30地区部会エリア	支援 (1地区増・計26地区部会エリア)	—	コロナ禍の影響もあり、1地区増にとどまり、計画に遅れがみられます。 引き続き、地区部会や町内自治会への働きかけを行い、新規立ち上げに向けて支援していきます。	△	推進班
8	子どもの居場所づくりへの支援	子どもたちが安心して過ごすことができ、人や社会と関わる力や自己肯定感を育むことができるよう、子どもの居場所づくりに取り組んでいる団体を支援します。	子どもの居場所づくりに取り組む団体同士をつなぎ情報共有ができる場をつくり、ホームページ等での情報発信などによって、子どもの居場所づくりの創設と活動継続に向けた支援を行います。	ホームページ更新 情報交換会開催	ホームページ更新 情報交換会開催	ホームページ更新 情報交換会開催	千葉市と千葉市子ども食堂ネットワークと本会による情報交換会を開催しました。 本会のホームページに、子ども食堂欲しいもののリストを掲載するとともに、各種助成金情報を周知・申請の支援を行いました。 また子ども食堂ネットワーク主催の子ども食堂運営者向け研修やイベントを共催しました。	(共募) 8千円	概ね計画どおり進捗しています。	○	推進班

施策の方向性3 いきいきと暮らせる地域をつくる

No.	取組項目	事業概要	取組内容	当初3年間の計画			R4実績	R4決算額	R4委員会の評価	所管	
				R4	R5	R6					
9	ふれあい・いきいきサロンの促進 《重点》	高齢者が生きがいをもって、いきいきと暮らしていけるよう、地区部会が実施するサロン活動を支援します。	助成等を通じ、地区部会を支援し拡充に努めるとともに、施設福祉部門の専門職をサロン活動に派遣し、活動内容の充実を図ります。	50地区部会 3,000回 参加者・ボランティア延べ 51,000人	57地区部会 3,420回 参加者・ボランティア延べ 58,140人	64地区部会 3,840回 参加者・ボランティア延べ 65,200人	支援 56地区部会 2,753回 37,479人 【参考】 ＜助成金対象外＞ 1,697回 18,272人 ＜合計＞ 計4,450回 計55,751人	(市補助・会費・共募) 4,130千円	助成金交付基準の緩和を継続し、前年度実績(44地区部会1,841回)に比べて実施地区部会数、実施回数とも増加しましたが、実施回数の目標値には至りませんでした。 なお、参加者・ボランティア数については、5人以下での実施も可としたこともあり、目標値には至りませんでした。 引き続き、地区部会や町内自治会への働きかけを行い、活動再開、新規立ち上げに向けて支援します。	△	推進班
10	ふれあい・子育てサロンの促進	身近な地域で交流を望む子育て中の親がほっとするひと時を過ごすため、地区部会が実施するサロン活動を支援します。	助成等を通じ、地区部会を支援し拡充に努めるとともに、施設福祉部門の専門職をサロン活動に派遣し、参加者が抱える相談に対応するなど活動内容の充実を図ります。	35地区部会 455回 参加者・ボランティア延べ 13,650人	44地区部会 572回 参加者・ボランティア延べ 17,160人	53地区部会 689回 参加者・ボランティア延べ 20,670人	支援 41地区部会 438回 7,614人 【参考】 ＜助成金対象外＞ 68回 830人 ＜合計＞ 計506回 計8,444人	(市補助・会費・共募) 657千円	助成金交付基準の緩和を継続し、前年度実績(27地区部会197回)に比べて実施地区部会数、実施回数とも増加しましたが、実施回数の目標値には至りませんでした。 なお、参加者・ボランティア数については、5組以下での実施も可としたこともあり、目標値には至りませんでした。 引き続き、地区部会や町内自治会への働きかけを行い、活動再開、新規立ち上げに向けて支援します。	△	推進班
11	ふれあい・散歩クラブの促進	高齢者が生きがいをもって、いきいきと暮らしていけるよう、気軽に始めることができる散歩クラブを実施する地区部会を支援します。	助成等を通じ、地区部会を支援し拡充に努めるとともに、施設福祉部門の専門職をクラブ活動に派遣し、活動内容の充実を図ります。	25地区部会 450回 参加者・ボランティア延べ 5,850人	27地区部会 486回 参加者・ボランティア延べ 6,318人	29地区部会 522回 参加者・ボランティア延べ 6,786人	支援 24地区部会 448回 4,625人 【参考】 ＜助成金対象外＞ 301回 2,661人 ＜合計＞ 計749回 計7,286人	(市補助・会費・共募) 448千円	実施地区部会数、実施回数とも概ね目標値を達成しましたが、参加者数・ボランティア数は目標値を下回りました。(前年度実績17地区386回) 引き続き、地区部会や町内自治会への働きかけを行い、活動再開、新規立ち上げに向けて支援します。	△	推進班
12	ふれあい食事サービス事業への支援	ひとり暮らし高齢者などを対象に、見守りを兼ねた配食や、会食を伴う交流事業を行う地区部会に助成・援助します。	助成等を通じ、実施地区部会を支援します。 また、開催方法の工夫などについて情報提供していきます。	19地区部会 203回	29地区部会 278回	37地区部会 343回	支援 11地区部会 88回	(会費・共募) 980千円	前年度実績(3地区部会21回)に比べて実施地区部会数、実施回数とも大幅に増加しましたが、目標値には至りませんでした。 引き続き、活動再開、活動を実施する地区部会を支援します。	△	推進班
13	多世代交流等の推進 《新規》	いきいきプラザで高齢者だけにとらわれず地域で暮らす多様な方々が交流できる場を設け、地域の仲間づくりを支援し、助けあい、支えあいの意識の啓発に繋がります。	地域で暮らす高齢者、障害者、子育て世代等の当事者が参画し、お互いに交流するイベントを開催します。 また、共助という観点や地域の方々にも役割を担っていただくという意味合いからもボランティアを養成し、イベントの運営に協力していただきます。	1か所	2か所	4か所	稲毛いきいきプラザで地域の大人から子どもまでが楽しめるイベントを開催し、各種イベントブースに延べ754人の参加がありました。 また、利用者がボランティアとして運営の協力を得ることもでき、住民同士の支え合いの啓発にも繋げることができました。 来場者393人(内子ども97人)	—	計画どおり進捗しています。	○	いきいきプラザ

施策の方向性4 どんな相談にも寄り添う体制をつくる

No.	取組項目	事業概要	取組内容	当初3年間の計画			R4実績	R4決算額	R4委員会の評価	所管	
				R4	R5	R6					
14	コミュニティソーシャルワーク機能の強化 《重点》	「地域共生社会」の実現に向けて、複合化・複雑化した問題を受け止める多機関の協働による包括的な相談支援体制や住民等が主体的に地域生活課題を把握して解決を試みる体制の構築を図ります。	コミュニティソーシャルワーカーが中心となり、生活自立・仕事相談センターや成年後見支援センターなど関連部署が連携して、支援の手が届かない制度の狭間にいる人たちに寄り添いながら困りごとの解決に向けた支援を行います。	実施	実施	実施	<個別支援> 事案件数 115件 <会議・研修> CSW会議12回 内、CSW事例検討会 2回 内、研修会 1回	—	CSWが、各区2人体制となり、個別支援は前年度実績（49件）の2倍以上となり、概ね計画どおり進捗しています。引き続き、地域生活課題の解決に向けた体制の構築を図ってまいります。	○	推進班
15	地域生活課題の解決に向けた支援	高齢者や障害者、生活困窮者など、生活課題を抱える方が住み慣れた地域で自立した生活を継続できるよう、関係機関と連携して支援します。	<コミュニティソーシャルワーカー> 困難を抱えた方からの相談や地域に出向いた際に得た地域生活課題に対し、ニーズに応じた支えあいの仕組みづくりを行います。 <生活福祉資金の貸付> 低所得世帯、障害者世帯又は高齢者世帯に対し、資金の貸付けを行うことにより、その経済的自立及び生活意欲の助長促進並びに在宅福祉及び社会参加の促進を図り、安定した生活を送れるよう民生委員・児童委員や自立相談支援機関等の関係機関と連携しながら支援します。 <生活困窮者の自立支援> 千葉県貧困対策アクションプランを踏まえ、包括的な相談支援として、個人に対してワンストップ型の相談窓口により情報・サービスの拠点として機能し、一人ひとりの状況に応じ自立に向けた支援計画を作成し生活困窮者支援を行います。 また、地域ネットワークの強化・社会資源の開発など地域づくりを行います。 <権利擁護支援> 日常生活自立支援事業の実施及び、本会が成年後見人等を受任して判断能力が十分でない方の権利擁護を図ります。 <生活支援コーディネーター> 日常生活圏域で活動する第2層コーディネーターの総合調整、活動支援及び定例会を開催します。地域づくり推進を目的とした中心的な団体等との連携促進・ネットワーク構築及びシンポジウムや交流会等を開催します。多様な関係主体間の定期的な情報共有及び連携協働を推進するための区域協議体を開催します。	実施	実施	実施	<コミュニティソーシャルワーカー> ・地域資源立ち上げ件数 42件 <生活福祉資金の貸付> ・申請件数 1,229件 ・決定件数 735件 ・決定金額 301,089,100円 <生活困窮者の自立支援> ・新規相談受付件数 926件 ・プラン作成件数 426件 ・関係機関等との会議等782件 <権利擁護支援> ・日常（利用者数） 353人 ・後見（受任件数） 42人 <生活支援コーディネーター> ・毎月、第2層コーディネーターとの定例会を開催 ・区協議体を各区年1回開催	<コミュニティソーシャルワーカー> — <生活福祉資金の貸付> （受託金） 19,783千円 <生活困窮者の自立支援> （受託金） 47,159千円 <権利擁護支援> （市補助・事業収入） 日常 46,076千円 （市補助・事業収入） 後見 11,660千円 <生活支援コーディネーター> （受託金） 25,643千円	<コミュニティソーシャルワーカー> 地域資源立ち上げ件数は、前年度実績（25件）の約1.7倍となり、概ね計画どおり進捗しています。引き続き、地域生活課題の解決に向けて、ニーズに応じた支えあいの仕組みづくりを実施していきます。 <生活福祉資金の貸付> 概ね計画どおり進捗しています。 <生活困窮者の自立支援> 概ね計画どおり進捗しています。 <権利擁護支援> 概ね計画どおり進捗しています。 <生活支援コーディネーター> 概ね計画どおり進捗しています。	○	推進班 民生・貸付班 仕事C 後見C 生活支援班

施策の方向性5 地域の様々な団体と連携・協働する

No.	取組項目	事業概要	取組内容	当初3年間の計画			R4実績	R4決算額	R4委員会の評価	所管	
				R4	R5	R6					
16	権利擁護のネットワークづくり 《新規》	権利擁護が必要な方が適切に支援を利用できるよう、各種専門職団体や関係機関との間で連携強化を図ります。	行政、司法・福祉・医療の専門家、住民等による協議会を設置し、権利擁護を必要とする方が早期に発見され適切な支援が受けられるよう仕組みを構築します。	実施	実施	実施	協議会開催 3回 千葉市とともに、千葉県弁護士会等の各種専門職団体、当事者団体、千葉市あんしんケアセンター、千葉市障害者基幹相談支援センター、千葉家庭裁判所などが参画する協議会を運営し、判断能力が十分でない方に対して適切な権利擁護支援が図られるよう、現状把握や意見交換等によって更なる連携強化を図りました。	(受託金) 91千円	概ね計画どおり進捗しています。	○	後見C
17	大学と地域の連携の推進	地域の問題に対して、大学や学生のスキルを活かし、地域活動に反映していきます。	市内にキャンパスを有する千葉市・大学連絡会議に参画している13大学と連携し、地域活動につなげていきます。	1校 (計8校)	1校 (計9校)	1校 (計10校)	新たに植草学園大学と連携し、学生ボランティアサークルが主体となって運営する中・高生向けのフリースペースの立ち上げ支援を行いました。	—	計画どおり進捗しています。	○	推進班
18	社会福祉法人の地域における公益的な取組の促進 《重点》	地域における公益的な取組が広がるよう、社会福祉法人を支援します。	社会福祉法人と地域のニーズに合った「地域における公益的な取組」を提案し、地域の課題解決に努めます。 また、本会自らも「地域における公益的な取組」を実施します。	3法人 (計31法人)	3法人 (計34法人)	6法人 (計40法人)	新規立ち上げには至りませんが、花見川区では区事務所といきいきプラザに加え、あんしんケアセンターさつきが丘、205地区民生委員児童委員協議会と連携し、移動手段に不便を抱えている高齢者が多くいるとの情報があった地区を対象に、買物支援サービスを試行的に2回実施しました。	(会費) 157千円	コロナ禍の影響もあり、新規の立ち上げには至りませんでした。 また、買物支援サービスは一部の施設でのみ継続実施しました。 引き続き、社会福祉法人と地域のニーズに合った取組が進むよう相談・支援に努めてまいります。	△	推進班
19	NPO・団体との連携・協働 《新規》	地域における活動が広がるよう、NPO・団体と連携していきます。	地域におけるNPO・団体の活動を把握し、地域課題解決のため連携・協働します。	情報収集	情報収集	連携	情報収集 11月22日に生活協同組合コープみらいと「食品等の寄贈に関する覚書」を締結し、お米(5キロ入り379袋、1キロ入り172袋の計551袋)を寄贈いただき、生活支援課と連携しコロナ禍で生活に困っている方や母子生活支援施設、児童養護施設などに提供しました。	(会費) 17千円	概ね計画どおり進捗しています。	○	VC
20	企業等との連携・協働	企業等の社会貢献活動が広がるよう支援します。 また、企業のSDGsの取組みを把握し、地域共生社会の実現に向けて連携していきます。	企業等からの相談に基づき、社会貢献活動の提案を行うとともに、企業等の取組みの参考になるような事例を収集し、本会ホームページに掲載します。 また、地域活動の活性化を図るため、企業等のSDGsの取組みと連携します。	情報収集	情報収集	連携	情報収集	—	概ね計画どおり進捗しています。	○	VC
21	災害時の体制整備の強化 《重点》	災害ボランティアセンターの体制強化のため、平時から行政とNPO等の団体との三者連携や、本会職員とともに活動できるボランティアを養成し、発災時には速やかに災害ボランティアセンターを設置・運営できるようにします。	災害時に本会職員と協働で運営できるスタッフを養成し、本会職員と運営ボランティアによる災害ボランティアセンター設置・運営訓練を実施します。 また、災害資機材の整備を行います。	講座2回 訓練2回 資機材の整備	講座2回 訓練2回 資機材の整備	講座2回 訓練2回 資機材の整備	講座2回 訓練2回 資機材の整備	(共募) 1,355千円	概ね計画どおり進捗しています。	○	VC